

特別企画
世界の宗教小百科

した「世俗国家」でもあるからです。

「ピルグリム・ファーザーズ」と呼ばれるアメリカの始祖たちは、血で血を洗う欧州の宗教戦争から逃れて、自由に信仰するためにアメリカに渡ってきたプロテスタントでした。アメリカは彼らピューリタンの手で、「自由な信仰」を目的に作られた国なのです。

ゆえに、アメリカにおける政治の根源的な目的は、信仰の自由を保障することにあるともいえます。そのために、宗教と政治は徹底的に切り離されています。

——意外な気がします。ブッシュ大統領の政治姿勢にキリスト教右派が影響を与えているとの指摘もあります。

橋爪 必ずしもブッシュ大統領が突出しているとも言えないでしょう。歴代の合衆国大統領は、程度の差こそあれ、みな敬虔なクリスチャンで、「キリスト教徒ではない」と明言して大統領に当選する

のは不可能です。

アメリカは、キリストの再臨を信じている人の割合が非常に高い国です。国民の半分近くが、毎週教会に行っている。そういった意味で、社会の中心に教会が据えられているといえます。

ただし、キリスト教といっても数多くの宗派（教会）が存在します。どの宗派の信仰の自由も守られなければならない。だからこそ、宗教と政治を分離している。



聖書に手を置き、就任宣誓するブッシュ大統領。宗教オンチではアメリカは理解できない（AFP＝時事）

要するに、アメリカは宗教国家でありながら、なおかつ世俗国家である、特異な国なのです。その特異性を理解しないとアメリカという国の本質は理解できません。

●日本人こそ宗教を学べ

——全般的に日本人は宗教について無知だと言えます。

橋爪 宗教に無知なくせに、宗教を軽蔑していると言えます。こうした日本人の姿勢は、世界的にみればかなり特異なものです。このままだと、日本人は世界でさまざまな軋轢を引き起こすでしょう。

——数年前、インドネシアで、プタの酵素を触媒に使っていた日本企業が問題になりました。イスラム教ではプタを食べることが禁じられているからです。無知による軋轢は、すでに起きています。

橋爪 おもな宗教の特質を理解することは、これからのグローバル化時代を生きていくうえで必須教養の一つです。

●社会を知るための補助線

橋爪先生は大学で「宗教社会学」を担当され、世界の宗教について講義されております。なぜ、宗教を理解することが必要なのでしょうか。

橋爪 ある社会の人の行動や社会制度を深く理解するためには、宗教を知ることが重要です。そもそも宗教とは、文明の始まりとともに生まれたと言つてよいでしょう。文明が始まり、たくさん人間が集まって暮らすようになると、人びとの思考と行動を規制・調整し、一致させることが不

可欠になってきます。その役割を担うのが道徳や法律、そして宗教でした。

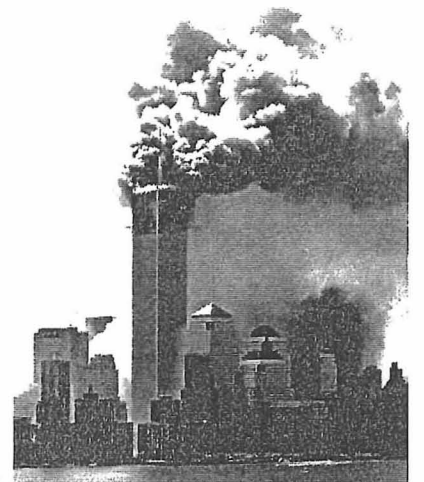
宗教は、いわば「社会を知るための最大の補助線」です。その社会の基底にどのような宗教があるかを知り、その知識を補助線として用いることによって、私たちはその社会を統一的に理解することができるようになります。

——たとえば、アメリカは「宗教国家」だと言われます。アメリカを理解するためには、宗教理解が欠かせませんね。

橋爪 戦前の外務大臣・松岡洋右は、日本政府きつてのアメリカ通

と見なされていた人物でしたが、彼は、「アメリカは物質文明の国で、享楽主義に溺れているから、日本が緒戦で華々しい戦果をあげれば、すぐに厭戦気分が広がるだろう」と甘い見通しをもっていた。日本が対米開戦を決意するにあたって、彼の意見が果たした役割は小さくありません。しかし、その見通しはまったく誤っていました。アメリカの宗教的側面を軽視したのがゆえの誤りです。

現代においても、アメリカ通と評される人びとがいますが、政治や経済に詳しくても、宗教オンチであるなら、アメリカの本質は理



「9・11」は宗教の存在をクローズアップさせた（PANA）

グローバル化時代の必須教養 宗教を学ぶことは なぜ大切なのか？

宗教に無知なことは恥すべきこと。
世界を知るためにも、宗教を学べし。

東京工業大学教授 橋爪大三郎氏に聞く



はしづめ・だいさぶろう
1948年、神奈川県生まれ。東京大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科価値システム専攻教授。専門は社会学。主著に『世界がわかる宗教社会学入門』（ちくま文庫）、『アメリカの行動原理』（PHP新書）などがある。
<http://www.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

解できないはず。松岡洋右の誤りを、再び繰り返さないという保証はありません。

●アメリカにとっての宗教

——アメリカでは宗教と政治が密接に結びついているのです。

橋爪 そうとは言えません。「宗教国家」のひとつとしてアメリカを理解した気になると、その本質を見誤るおそれがあります。なぜなら、もう一面で、アメリカは徹底

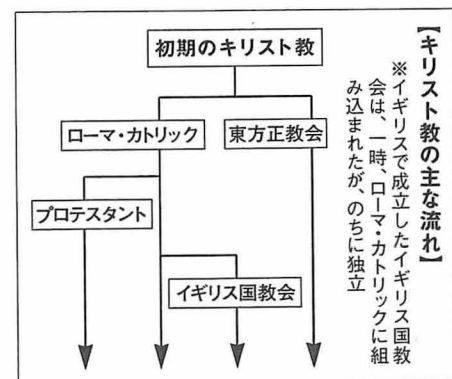
たとえ自らは仏教徒だとしても、他の宗教について学ぶことは大切です。たとえば、日蓮はあらゆる経典を徹底して学び、理解するプロセスを経て、「法華経こそ最高の経典」との結論にたどりつきました。他の宗教から目を背ける独善ではなかったのです。

ただし、日蓮をはじめとした仏教の開祖たちは、キリスト教やイスラム教を知りませんでした。そうした他の宗教を学び、仏教の思想と比較したうえで、自らの信仰を深化させていく姿勢が、現代の仏教徒に与えられた課題ではないでしょうか。

分裂しながら拡大し…
三九五年、ローマ帝国が東西に分裂すると、キリスト教会も西のローマ、東のコンスタンティノープル（現在のイスタンブール）が対立。一〇五四年には互いに相手を破門し、西のローマ・カトリック教会と東の東方正教会へと分裂する。

ローマ・カトリックは教皇（法王）を頂点とした巨大な組織を構築し、時にローマ帝国の皇帝をもしのぐほどの権力を持つにいたる。ローマ市内にある総本山ヴァチカンには、現在もヴァチカン市国として独立しており、世界に与える影響力は大きい。

一方、東方正教会はギリシア正教会や「オーソドックス」とも呼ばれる。



キリスト教には多くの宗派があり、教義に違いがある。したがって、ここでは宗派を超えて共通していると思われる基本的な教義をまとめた。

キリスト教における神とは宇宙の創造主であり、唯一絶対の存在である。『旧約聖書』によると、神は人類の祖先であるアダムとイブを創造したが、彼らが禁断の実を食べたことを罰し、神の園を追放する。このことから、人類は生まれながらにして罪（原罪）を背負っているという思想が生まれた。

次に、イエスは「神の子」であり、人類の救世主として現れたと考えられている。彼は神の国の到来が近いと告げ、「神を愛し、隣人を愛せ」と説いた。そして、人類全体の原罪を贖い死

んでいったと考えられている。

イエスが説いた「神の国」に行くためには、「最後の審判」と呼ばれる神の裁きを受けなければならない。キリスト教では、世界は必ず終末を迎えると考えられる。そのとき、イエス・キリストが再臨し、死者を含めたすべての人を審判する。信仰のある者は天国へ行き、神の意に反した者は地獄に堕ちる。ゆえに、神への愛と隣人への愛が大切になるのだ。

なお、「神の子」イエスと「父」である創造主、そして奇跡を起こす聖霊の三つが、その本質的存在においてひとつであることを「三位一体」といい、正統派キリスト教の基本的な考えとされている。

なぜ分かれているのか

キリスト教分裂と三大宗派の誕生

キリスト教には数多くの分派が存在する。そのなかでも3つの代表的宗派の成立過程を解説する。

東ローマ帝国の皇帝を教皇とし、政治と一体化して発展した。そのため、ロシア正教会やセルビア正教会など、各国に正教会が形成されることとなった。十六世紀に東ローマ帝国がオスマン帝国に滅ぼされ、イスラム教の支配下に入ると、東方正教会の中心はロシア正教会へと移った。

カトリック、東方正教会と並ぶ勢力にプロテスタントがある。プロテスタントとは「抗議する者」の意味で、カトリック教会に対する宗教改革運動から生まれた。教皇の権威や儀式を重んじるカトリックに対し、聖書重視と神のもとでの万人の平等を訴えたプロテスタントは、ルター派、カルバン派などの教派に分かれながらも、ドイツやスイスなどに広がった。

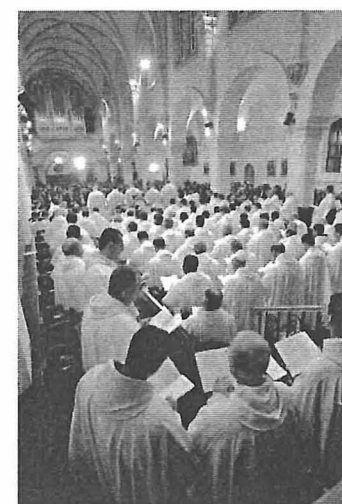


教義の基本中の基本

キリスト教は何を祈っているのか

キリスト教の教義の基本をコンパクトに解説。信徒にとって「神」とはどんな存在か？

【神父と牧師】神父はカトリック、牧師はプロテスタントでの聖職者の呼び名。神父が神と信徒の仲介役として重要な役割を果たすのに対し、牧師は信徒のまとめ役的存在。



イエス生誕の地ベツレヘムでのミサ (AFP)

●イエスの布教と処刑

キリスト教の開祖・イエスは、紀元前七〜四年ごろ、父ヨセフと母マリヤの子として誕生した。紀元二八年ごろ、ヨハネから洗礼を受けたイエスは、荒野での修行を経て、布教活動を開始する。

彼は形骸化したユダヤ教を批判し、神の国の到来が近いと説いた。さらに、病人を癒したり、死者を蘇らせるなどの奇跡を起こしたとされる。次第にイエスを慕う人びとが集まり、十二使徒と呼ばれる弟子たちも生まれた。

しかし、こうしたイエスの言動は、ユダヤ教徒からの怒りと憎しみを生むこととなった。

紀元三〇年ごろ、十二使徒の一人ユダに裏切られたイエスは、エルサレム

●迫害を超え「国教」へ

その後、イエスは復活し、四十日間わたって弟子たちに教えを説いたという。この「復活」によって、弟子たちの信仰は確固たるものとなり、各地への布教が本格化する。

なかでも、十二使徒のリーダー格であったペテロや、イエスの死後に信徒となったパウロらの伝道によって、地中海沿岸に広まっていく。その課程で民族の垣根を超える世界性を持つにいたり、現在のキリスト教の基礎は、この時期に築かれたとされる。

キリスト教の急速な発展に恐れを抱

いたのはローマ帝国であった。ローマの神々やローマ皇帝の崇拝を拒むキリスト教徒に対し、皇帝ネロやディオクレティアヌス帝は大規模な弾圧を行った。大勢の殉教者を出した迫害であったが、そのことがキリスト教徒の団結をさらに強める結果となり、教勢はさらに拡大。三一三年に発せられた「ミラノの勅令」によって、キリスト教はローマ帝国の承認を得たのであった。

さらに、三九二年にはテオドシウス一世によってローマの国教となり、さらに大きく広まることとなる。

その後、キリスト教はローマ・カトリック教会、東方正教会、プロテスタントなどの宗派に分かれるが、それらをすべて合わせると、現在、世界で約二十億人（全人口の三〇％強）が信仰している最大の宗教である。

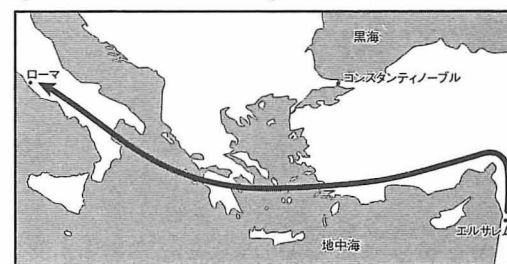
世界で約二十億人が信仰

キリスト教の誕生と発展

わずか二年余の布教の後、処刑されたイエス。その弟子たちがキリスト教を世界最大の宗教に発展させた。

- 基本データ
- 【開祖】イエス
 - 【誕生】紀元0年ごろ
 - 【聖典】聖書（旧約・新約）
 - 【教義】三位一体
 - 【人口】約20億人

【キリスト教の広まり】



エルサレム（現在のイスラエル）付近で誕生したキリスト教は、地中海沿岸を経て、ローマ帝国へと広がっていった

クリスマスって何？

十二月二十五日に行われるイエスの誕生を祝う祭。降誕祭とも呼ばれる。クリスマスの起こりには、ペルシアに起源を持ち、ローマ帝国で広く信仰されたミトラス教の影響が指摘されている。ミトラス教の太陽の誕生日を取り入れ、クリスマスになったといわれる。また、ツリーを飾るのは古代ゲルマン人の樹木崇拝からの影響という。

なお、サンタクロースは小アジアの司教、聖ニコラウスに由来する。ニコラウスは旅人や子どもの守護聖人であることから、子どもに贈り物をする現在の習慣が生まれたとされる。

【アーメン】キリスト教とユダヤ教で使われる言葉。礼拝や賛美歌の最後に付ける。ヘブライ語に由来し、「まことに。確かに」という意味。「私は神を信じます。アーメン（確かに）」など。

世界第二位の信徒数

イスラム教の誕生と発展

アッラーを唯一の神と崇め、偶像崇拜を禁止する厳格さを保ちながら、イスラム教は世界へと広まった。

●預言者ムハンマド

イスラム教の創始者ムハンマドは、五七〇年ごろメッカに生まれた。二十五歳で結婚し幸福な生活を送っていたが、四十歳ごろから瞑想にふけるようになる。

そんなある夜、瞑想中に天使ガブリエルが現れ、最初の啓示を受ける。この日を境に、ムハンマドは唯一「神アッラーの言葉を伝える「預言者」となった。六一〇年ごろのことだった。

ムハンマドは布教活動を開始したが、多神教を信仰していた当時の人びとにとって、偶像崇拜を禁止し、「神はアッラーのみだ」と説くムハンマドは容認できない存在であった。権力者たちはムハンマド一派に激しい迫害を加えた。その結果、ムハンマドはメッ

カからメディナへと脱出を余儀なくされる（聖遷ヒジュラ）。

メディナで宗教共同体（ウンマ）を形成するなどイスラム教の基盤を築いたムハンマドは、信者とともにメッカへの進軍を開始する。幾度かの戦いのち、六三〇年にメッカを征服したムハンマドは、カアバ神殿のすべての偶像を破壊。アッラーへの信仰を大きく広めたのだ。

メッカ征服の二年後、ムハンマドは死去。しかし、彼が形成したウンマは、カリフ（最高指導者）の指揮のもと周囲の地域を次々と征服し、イスラム教は拡大していく。

その後、内部対立もあったが、現在、世界で約十二億人（全人口の約二〇％）が信仰している世界第二位の宗教である。



1979年のイラン・イスラム革命はシーア派の革命（AFP＝時事）

対立する二大宗教

これがスンニ派とシーア派の違い

イスラム教徒の9割を占めるスンニ派と少数派のシーア派。対立原因はどこにあるのか？

イスラム教の二大宗教派にスンニ派（スンナ派）とシーア派がある。分裂のきっかけはカリフの後継者争いだった。第四代カリフのアリーとムアウィヤが対立。アリーが暗殺され、ムアウィヤが第五代カリフに就くと、アリー支持者が反発。アリー派（のちのシーア派）をつくった。

シーア派は、ムハンマドの正統な後継者はその血を引く者であると主張し、ムハンマドの従兄弟であったアリーこそ正統であるとする。よって、第四代アリー以外のカリフを認めない。そのうえで、カリフに代わる称号として「イマーム」を新たに作り、初代イマームはアリーだと定めた。

対立が起これば複数に分派。そのうち最大のは十二イマーム派で、第十二代イマームまでを認める人たちがいる。彼らは一九七九年にイラン・イスラム革命を成功させ、イスラム国家イランを成立させた。

シーア派の主張によると、イマームはアリーの血縁に限られ、間違いを起こすことはない。一方、スンニ派は、こうしたシーア派の考えはイスラム教と無縁な個人崇拜だと批判している。スンニ派はムハンマドの時代からの慣行を重視し、共同体の維持を第一とする人たちが、イスラム教徒の9割を占める多数派である。

ちなみに、イランやイラクではシーア派が多数派である。

誤解も多いイスラム教の教え

ムスリムの基本的な実践のスタイル

イスラム教独特の実践法と、それぞれがもつ意味を解説する。



巡礼者であふれるメッカのカアバ神殿（AFP＝時事）

六信	アッラー	唯一絶対神アッラー
	天使	アッラーと人間の中間的存在である天使
	啓典	コーラン、旧約聖書、新約聖書など
	預言者	アダム、ノア、モーセ、イエス、ムハンマドなど28人の預言者
	来世	神による審判の日と死後の世界の存在
	予定	神により定められた運命

五行	シャハーダ（信仰の告白）	「アッラーのほかには神はなく、ムハンマドはアッラーの使徒である」とアラビア語で唱えること
	サラート（礼拝）	1日に5回、神に礼拝を捧げる
	サウム（断食）	ラマダーン月（イスラム暦の第9月）に日の出から日没まで、飲食や喫煙などの欲望を断つこと
	ザカート（喜捨）	所得の一定割合を喜捨すること
	ハッジ（メッカ巡礼）	イスラム暦の第12月の8日から10日に、決められた道順で聖地メッカのカアバ神殿を訪れること

信」、具体的な実践義務を「五行」と呼び、厳格に定められている（一覧表参照）。さらに、細かく生活規範を定めた教えもあり、厳しい自然環境の砂漠の地を生きたための生活の法ともいえる教えとなっている。

●礼拝と断食の方法

イスラム教の実践には特徴的なものが多い。

まず、サラートと呼ばれる礼拝は早朝、正午過ぎ、遅い午後、日没後、就寝前の一日五回行うのが基本である。心身を清めたあと、メッカのカアバ神殿に向けて礼拝を捧げる。また、毎週金曜日の昼にはジューアムと呼ばれる集

団礼拝が行われている。

次に断食だが、イスラム暦第九月（ラマダーン月）に行われるので、ラマダーンと通称されている。断食期間は約一カ月。この間は毎日夜明けから日没まで、飲食をはじめ、喫煙や性交などが禁じられている。水を飲むことさえ認められていないが、病人や妊婦、子どもなどは例外とされる。

断食はムハンマドが神の啓示を受けたことを記念して行われるのだが、断食を通して、貧しい人たちの気持ちを理解するためともされている。

●豚肉と飲酒は禁止

ハッジと呼ばれる巡礼もムスリムの

大切な義務だ。イスラム暦第十二月の八日から十日までの三日間を中心に行われる。聖地メッカへの巡礼は、ムスリムであれば生涯に一度は出かけることが望ましいとされ、現在は毎年二百万人以上がメッカを訪れている。

偶像崇拜の禁止もイスラム教の大きな特徴だ。唯一絶対神アッラーは世界を超越した存在であり、その姿を知ることや想像することもできないと定義されている。ゆえに、偶像化は厳しく戒められており、モスクには肖像画などはいっさい存在しない。

ムスリムが豚肉を食べないこともよく知られている。牛肉や鳥肉は許されているが、頭動脈を切って死んだ動物の肉しか許されていない。また飲酒も礼拝を妨げるとして禁止されている。

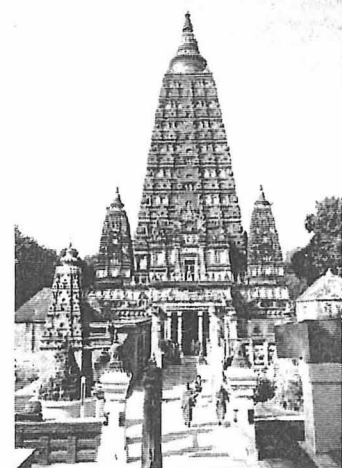
なお、イスラム教では一夫多妻を認めていること、また女性が顔を覆うような服装を着る場合が多いことによつて、女性差別の宗教であると思われがちだが、一夫多妻には夫を亡くした女性や子どもを援助するという社会福祉的側面があり、全身を覆うベールには、男性の欲望を抑制し、女性が心配なく外を歩けるようになるという効果があるという。これらも、厳しい自然環境から生まれた知恵といえるのかもしれない。

【預言者】神の言葉を預かり、人びとに伝える人。コーランではアダムやモーセ、イエスらも預言者とし、ムハンマドを「最後の預言者」とする。ちなみに、「予言」とは異なるので注意。

●菩提樹の下で悟った釈迦
仏教の開祖、ゴータマ・シッダールタ（釈迦）は釈迦国の王子として生まれた。恵まれた環境で育ったが、生老病死の苦悩を抱き、悟りを求めて出家する。

最初、釈迦は命懸けの苦行をくり返した。しかし、苦行では悟りを得ることができず、菩提樹の下で静かに瞑想しているなかで悟りを開いたという。釈迦三十五歳のときであった。以来、八十歳で入滅するまで、釈迦は教えを説きつづけた。

釈迦の教えは、当時、優勢だったバラモン教と対立した。バラモンたちは釈迦教団を迫害したが、釈迦の教団は徐々に広がり、十大弟子をはじめとした弟子たちも多数誕生していった。



釈迦が悟りを開いた地ブッダガヤ(PANA)

世界三大宗教では最古の歴史 仏教の誕生とその発展の流れ

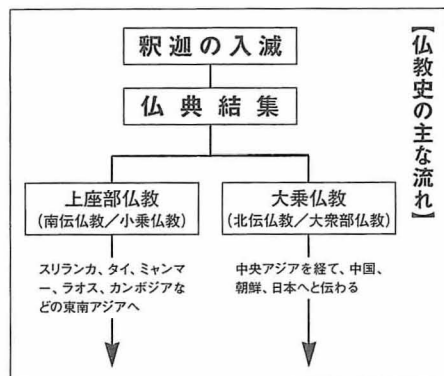
紀元前四六三年ごろに生まれた釈迦によって開かれた仏教は、世界性を持った最古の宗教だった。

●分裂と飛躍的發展

紀元前三八三年ごろ、釈迦が入滅。弟子たちは釈迦の教えをまとめるため仏典結集をはじめた。八万法蔵と呼ばれるほどの多くの仏教経典が存在しているが、釈迦は生前、文字として教えを残していなかった。つまり、現在まで伝わる釈迦の教えとは、このとき結集されたものといえる。

その後、仏教は二派に分裂。戒律を重んじ自らの成仏を第一とする上座部と、衆生救済を第一とする大乘仏教へと分かれる。この分裂によって多くの部派が生まれたが、各部派の布教活動が活発化し、仏教全体は飛躍的に発展を遂げることとなる。

現在も仏教には数多くの宗派が存在しているが、それらを合わせると、現



在、世界で約四億人（人口の約6%）が信仰している。

ちなみに、釈迦のことをブッダと呼ぶが、ブッダとは「悟った人」という意味を持つ言葉であり、「釈迦は悟りを開くことでブッダになった」と考えるのが正しい理解といえるだろう。

基本データ
[開祖] 釈迦（ブッダ）
[誕生] 紀元前6～5世紀
[聖典] 仏教経典
[教義] 八正道など
[人口] 約4億人

釈迦の教えと多様化

キリスト教のイエスやイスラム教のムハンマドが神からの啓示を説いたのに対して、釈迦は自ら悟った内なる法（ダルマ）を説いた。この点に仏教の特徴がある。

釈迦が説いた教えは多岐にわたるが、その代表的な教えとしては「四聖諦」と「八正道」の考えがあるとされる。四聖諦とは苦諦・集諦・滅諦・道諦を指す。人生は苦であり（苦諦）、その原因は欲望にある（集諦）。欲望を滅すれば悟りが開かれ（滅諦）、そのためには正しい実践をしなければならぬ（道諦）、と説く。その正しい実践法こそ八正道であるという。

釈迦入滅後、仏教は上座部と大乘に分裂。インドから伝播していく過程において、それぞれの地で新たな教義が体系化されていった。修行法も座禅・読経・唱題など、さまざまな方法が誕生していく。

仏教が日本に伝来したのは六世紀のこと。その後、日本土着の信仰などと混交され、「日本仏教」とも称されるものが形成されていく。現在、日本で信仰されている仏教は、平安時代末から鎌倉時代にかけて成立した、日本で生まれた教えであるといえるだろう。

【釈迦の生涯】 釈迦の生涯については諸説あり、古い説では紀元前624年生まれというものもある。また、悟りを開いた年齢も30歳説、35歳説などが存在する。

キリスト教の母体でもある 日本人が苦手な ユダヤ教とは

数千年の歴史を持ち、キリスト教やイスラム教の母体ともなったユダヤ教。その数奇な歩みとは。

基本データ
[開祖] —
[誕生] 紀元前13世紀前半
[聖典] 旧約聖書
[教義] 神との契約と律法
[人口] 約1200万人

●約束の地を求め続けて

ユダヤ教とはユダヤ人の民族宗教である。その起源は古く、定かではないが、実質的な創始は紀元前十三世紀前半ごろの「出エジプト」とされる。「出エジプト」とは、指導者モーセに率いられたイスラエルの民が、奴隷として扱われていたエジプトを脱出したことを指す。その背景には、モーセと神との契約があったとされる。

神はモーセに「イスラエルの民をカナンに導け」と命じ、神への絶対帰依と引き換えに魂を救済するという契約を交わしている。さらに「十戒」という守るべき律法を授けており、ゆえにユダヤ教はいまも戒律に厳格である。モーセに率いられてエジプトを脱した一行は、四十年かけて約束の地カナ

ンに到着する。そして、この地にイスラエル王国を建国する。しかし、紀元前五九七年にはバビロニアの攻撃によって多くのユダヤ人が連行されるという「バビロン捕囚」が起こり、さらに、ペルシア帝国やエジプト、ローマなどの支配を受け続けた。

そうした苦難のなか、いつしかユダヤ人はイスラエルを離れ、世界に離散する。それでも、ユダヤ人には、「自分たちは神に選ばれて契約した選民である」との誇りがあり、世界の各地で自分たちの宗教とアイデンティティを守り抜いてきたのだ。

次にユダヤ人が自分たちの国を持つのは一九四八年。現在のイスラエルが建国されたことによる。

宗教人口は少ないが、影響力の大きな宗教といえる。

“兄弟”宗教の緊張関係 対立がつづく その原因とは

ユダヤ教、キリスト教、イスラム教。緊張の三角関係の背景とは。

ユダヤ教、キリスト教、イスラム教が信じる神は、その呼び方は異なれども同じ唯一神である。神が天地を創造し、終末の日に最後の審判を下すという教えも三宗教に共通する。ゆえに、この三つの宗教は兄弟関係にあるといえるのだ。

では、それぞれの教えのどこが違うのだろうか。まず、聖典が異なる。旧約聖書のみを聖典とするユダヤ教、旧約聖書・新約聖書を聖典とするキリスト教、旧約聖書・新約聖書とともにコーランを聖典とするイスラム教と、教義が違うのだ。

さらに、イエスの存在をどのように認識するかによっても色分けできる。まず、三位一体を説くキリスト教では、



ユダヤ教の聖地「嘆きの壁」に立つローマ法王（AFP時事）

「神の子」イエスは神である。これに対し、ユダヤ教にとってイエスは、本来あったユダヤの律法を破った者であり、認めるわけにはいかない存在である。イスラム教はイエスの教えの一部を認めているが、神とはとらえてはおらず、神から啓示を受けた預言者の一人にすぎないと考える。

信仰の根幹となる「神」のとらえ方が異なるだけに、十数世紀にわたって緊張関係がつづいてきたのだ。

三宗教の間には、聖地をめぐる争いの歴史もあった。エルサレムは三つの宗教の聖地が併存する場所である。かつてキリスト教は聖地奪還のために十字軍を結成した。さらに、現在のイスラエル・パレスチナ問題をみても、聖地エルサレムは宗教間対立の舞台となっている。

三宗教間の軋轢と緊張は、すぐには解消されそうもない。

【旧約聖書】ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の聖典。天地創造、アダムとイブ、ノアの方舟などの物語が書かれている。なお、旧約の「約」は「契約」の意味。「旧約聖書」は誤り。

「三大宗教」以外の 世界の宗教

信託教が一千万人以上の
宗教を紹介する。



シク教徒 (PANA)

●ヒンドウ教徒は九億

ヒンドウ教はインド人の八割以上が信仰しており、バリ島やスリランカ、ネパールなどの信者を含めると、世界で約九億人が信仰している宗教である。宗教人口的には仏教をしのぐ規模をもつ。

バラモン教を母体に、仏教やジャイナ教、民間信仰などの要素を取り入れて成立した。輪廻からの解脱が信仰の目的であり、師からイニシエーションを受けて修行すること（タントリズム）という修行方法がとられている。

さまざまな神々が存在するものもヒンドウ教の特徴だが、崇拜の中心はビシュヌ神とシヴァ神。「マハーバータ」や「ラーマヤナ」が聖典とされている。

ほかに、インド人に信仰されている

宗教にシク教がある。シク教はヒンドウ教とイスラム教を融合させたものとされ、輪廻からの解脱と神との合一を目指す。一七世紀後半、ムガル帝国と対立し弾圧を受けた体験から、信仰を守るためにシク教は戦闘的になった。髪やヒゲを剃らず、ターバンを巻き付けた姿が特徴だ。現在、二千万人が信仰しているとされる。

ほかに、中国の儒教や道教、老荘思想などを宗教とみなせば、四億人以上が信仰していることになる。

また、近代になって誕生した宗教組織が、国や民族を超えて広まっているのも最近の流れである。アメリカで生まれたモルモン教やエホバの証人、日本で生まれた創価学会などが、国際化時代の進展とともに世界的な広がりを見せている。こうした教団から、新しい世界宗教が誕生してくるかもしれない。

二〇〇一年九月十一日、未曾有の惨事となった同時多発テロが発生した。犯人はイスラム原理主義組織「アルカイダ」とされ、アメリカは拠点とされたアフガニスタンを攻撃。タリバン政権を転覆させた。

また、世界の宗教者が宗派を超えて語り合う機会も増え、互いの無理解と誤解の溝を埋めようとする努力も行われている。

宗教間の対話がこれほど活発化した時代は、人類の数千年の歴史のなかでなかったといえる。人類史にとっても大きな転換の時なのだ。

コラム 21世紀は 宗教の時代

日本人には無宗教の人が多いというが、世界の人類のうち約八五％はなんらかの宗教を信じている。宗教が変わるということは、世界が変わること。自分は無宗教だからと宗教を無視しては世界を理解できない。

その意味でも、二十一世紀は宗教の時代といえるだろう。

【特別企画・参考文献】橋爪大三郎著「世界がわかる宗教社会学入門」ちくま文庫／井上順孝著「図解維学 宗教」ナツメ社／町田宗鳳著「すぐわかる世界の宗教」東京美術／歴史の謎を探る会編「常識として知っておきたい世界の三大宗教」河出書房新社 ほか

評論 (言語)

～言葉ってどんなものだろう？～

さあ、入試頻出の評論読解に役立つテーマの学習を始めよう！ まずは評論における「テーマ」がどのようなものかを確認するところから始めるよ。株式会社 ベネッセコーポレーション 2006.1発行

出題問題 橋爪大三郎「言語」派社会学 『進研ゼミ高校講座 現代文 評論 テーマ』P2

はじめに

評論読解の目的は、
筆者の主張を理解すること。

さみは、入試の評論読解がどういうものかについて、きちんと理解しているかな？

そもそも、評論とは、「筆者の意見が論理的に述べられた文章」のことだね。だから、読み手には、その書き手（筆者）の意見を理解しながら読むことが求められるんだ。もちろん、入試の評論読解でもそれは同じ。「筆者の主張（意見）を理解し、それに沿って問題文の内容を正確に読み取る」と、これが入試の評論読解で、一番重視されることなんだ。

入試の評論では、
きみの知らないテーマが出る！

評論で述べられている筆者の主張を理解するためには、まず、文章全体を丁寧に読んでいくことが大切だよ。一つ一つの文を丁寧に読んで正確に理解すること。地味なように感じるけど、これが評論読解の王道なんだ。ところが、入試で取りあげられる評論は、ただ読んだだけでは何が述べられているのか理解できないことも多い。

せっかく、読むぞ！ と意気込んで取り組んだのに、最初の数行で何が書いてあるのかわからなくなって、くじけてしまった。そんな経験、きみにもあるのではないかな？ 日本語で書かれた文章なのに、どうしてそんなことになるのだろうか。それを次の文章を例に考えてみよう。

グイトゲンシュタインは、痛いから「痛い」と言うのではない。「痛い」と言うから痛いのだ」とのべている。

橋爪大三郎「言語」派社会学（「岩波講座 現代社会学」5）
知の社会学／言語の社会学 岩波書店



「痛い」という言葉がなかったら、私たちは「痛い」と感じられない？！
今まで知らなかった発想が出てくるのが評論だ。

傍線部分を読んで、なんとも不思議な考え方だと感じなかったかな？ 普段の生活では、痛いと思ったときに「痛い」と言うことはあっても、「痛い」と言うから痛いのだなんて考えることはないよね。今まできみが知らなかった考え方なのではないかな。

おまけ